

第4回 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会 調査部会議事メモ

日時 : 平成 18 年 2 月 23 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30

場所 : 御殿場市役所現業棟 2F 会議室

参加委員 : 前田、藤村、渡邊、福島 (市民)

勝又、田代、鈴木 (政) 杉山 (市職員)

事務局 : 鈴木 (政) 鈴木 (明) 勝又 (地域振興課)

山本、福島 (株ダイナックス都市環境研究所)



1 資料説明

キックオフ大会開催要項案について事務局から説明がなされた。

* 5 月 13 日 (土) 御殿場市市民会館小ホールにて

* タイトル案は「市民協働元年キックオフ大会」

* 内容は、市民活動団体の活動発表、モデル区事業や公益事業の紹介、市民協働事業の PR、仲間募集のパネル展示など

2 検討事項

①キックオフ大会の開催について

タイトルについて

- ・何をやるのかわかりやすいように、注釈が必要ではないか。(サブタイトル)
- ・「みんなでまちづくり」という言葉を入れてはどうか。
 - 「まちづくり」には区画整理、ハード整備のイメージがあるのでは
 - 「市民協働まちづくり元年」ではどうか
 - 「地域づくり」という言葉に変えては

検討の結果、**「みんなで協働！！キックオフ大会」 - 市民協働まちづくり元年 -** に決定

講演について

- ・市民活動が市を変えていき、新しい御殿場となることがテーマである。
- ・三島グラウンドワーク事務局長の渡辺さんは人気もあり話もわかりやすいので、有力候補では。
- ・渡辺さんの話を聞きたい人は多いので、出来るだけ時間を長くにとってほしい。
- ・そのほか、せんだい・みやぎ NPO センター代表の加藤哲夫さんも候補にあげたい。

検討の結果、**三島グラウンドワーク事務局長の渡辺豊博さん**に事務局が依頼することに決定

活動紹介 (パネル展示) について

- ・NPO や市民活動団体 (10 ~ 15 団体) にブースを用意し、パネル 1 ~ 2 枚を展示できるようにする。
- ・ブースには説明者を置いて、見に来た人に説明できるようにする。
- ・報告や講演の前後に時間をとって、ゆっくり展示が見られるようにする。

プログラムについて

- ・開会あいさつは、市長と会長が協働で行い、「キックオフ宣言」をしてサッカーボールを蹴るなどのパフォーマンスをしてはどうか。
- ・協議会の報告も、同様に副会長と事務局が協働で行う。指針の説明とモデル事業の説明で 30 分程度。特に協働事業の募集説明の部分はきちんと聞いてもらえるようにしたい。
- ・パイロット事業の行政提案部門の募集も、担当課に来てもらって説明してもらってはどうか。
- ・講演を先にすると人が帰ってしまう可能性があるので、先に協議会の報告をした方がよい。
- ・報告と講演の後、休憩をはさんで、各団体の活動発表の時間とする。各団体 5 分程度。展示パネルを壇上に持ってきて説明するなど、発表の方法は自由とする。
- ・活動発表の時間は、聞きたい人は前に集まってもらって、展示ブースを見たい人は自由に見られるようにする。
- ・何団体が発表するかは未定だが、4 時半くらいから片付けを開始し、5 時には解散とする。
- ・終わったあとは、参加者の懇親を深めるため、会費制で交流会を行ってはどうか。

広報について

- ・4 月 20 日号の広報ごてんばで、見開きの 2 頁を確保している。この中でキックオフ大会の告知も行いたい。
- ・ほかに地方紙での告知、チラシやポスターをつくって企業まわりなども考えている。



②18 年度の協働事業の募集について

事業の枠組み・募集内容について

- ・出来れば、協働モデル地区事業、市民公益事業、パイロット事業を一元化して募集をかけた方がよいのではないかと。
- ・モデル地区事業の場合、4 月の区長連絡会で説明、5 月に受付、内部審査を経て決定している。市民公益事業の場合、1 ヶ月遅れとなる。応募の締め切りはあるが、予算枠があれば順次受け付けている。
- ・審査の内容については情報公開し、落選した団体があればアドバイスするなどフォローアップが必要。
- ・パイロット事業は地域振興課で 80 万円の予算を持っており、それを応募の状況を見て配分することになる。
 - 交付金額の上限や団体数の目安は示しておいた方がよい。
 - はじめの一步部門：上限 5 万円 × 5 団体程度
 - 市民提案部門：上限 30 万円 × 2 団体程度 ではどうか。
- ・事業を選ぶ際の審査基準や事業終了後の評価基準をある程度決めておいて、募集の時に説明できないといけない。
 - ただしあまりハードルが高すぎて、応募が少なくなると困る。
 - 大和市の場合でも審査項目については詳細に示していない。
 - 公益性、実現性など共通項として使えるような項目を示しておけば良いのではないかと。
- ・パイロット事業は 18 年度に試験的にやってみた結果を受けて、次年度以降に要綱をつくっていく形としたい。

募集の対象・応募要件について

- ・はじめの一步部門は、団体やグループへの支援とする。要件は新規の自発的な活動団体であること、公益性があり継続的な活動が目的であること。
- ・グループは3人以上くらいが良いのでは。ほかに、活動場所が市内であること、構成員が市民または在勤者であること等。規約などは必要としないこととする。
- ・共通要件の「協働・連携の体制が組めるもの」とあるが、行政がお金を出すだけのものは協働になるのか？

協働事業は、市民と行政が一緒になってやるものである。単にお金を出すのではなく、審査・評価をすることも必要である。

実例を重ねないと難しいだろう。要件としては「協働・連携の手法が必要とされている」としたほうがいいかもしれない。

今は連携していなくても、どの部署とどう連携していけばよいか、協議会でアドバイスできると良い。

事務局の地域振興課は大変だが、市民団体と、連携できる部署とをつないでいく役目を果たしていくべき。

公開審査について

- ・公開審査は厳しい審査会ではなく、協議会を公開の形にして、プレゼンテーションに来てもらうという程度にとどめてはどうか。
- ・応募があったものを説明してもらって、協議会で審査する。協働の度合いが高いものを決定していくことになるだろう。
- ・審査するイメージよりは、協議会が助言することを、提案内容と合わせてやってもらうことが条件になるのでは。（計画の一部変更をお願いする形で）

行政提案部門について

- ・各課の予算枠があるのに、実際には庁内募集できないのでは？

3月中に決まってしまうお金もあるので、追加の予算枠がないと難しいかもしれない。

- ・庁内にメールや文書だけ流しても応募がないと思う。

各課で1つはあげてもらうように、部長会で提案したい。

もし応募がなかったら、次年度に出してもらうという流動的なものでもよいのでは。

- ・今までの事業でお願いしていた業者や団体との関係を切らないといけなくすれば、時間もかかる。やり方自体を変えないといけない。

事業委託だけでなく、会議のメンバーを募集して市民の知恵を借りるということであれば、それほどお金をかけずに出来る。

- ・現実的に提案があがってくるかは難しいところだが、半強制でもモデル的に1つ2つやってみないと次につながらない。行政も無理してでもチャレンジしなければ進まない。

行政用協働事業チェックシートについて

- ・まだ試験的につくったものなので、洗い直しが必要。使い方も決まっていない。
- ・これは行政用の評価項目であるが、行政の主観と市民の主観があり、両方ないと片手落ちになってし

まう。一律・相互の評価ができるものが必要。

- ・モデル事業をやりながら行政用のマニュアルを作成することになるが、それにチェックシートも合わせて、協働事業評価が出来るようにしたい。
- ・チェックシートをどう活用していくかが大きな問題である。評価しっ放しでなく、改善していくスタイルが望ましい（PDCAサイクル）。
- ・評価項目の内容は、共通の認識がないので、採点に差が出てしまう。
- ・ためにしに記入したものを市民が見て、どう思うかが疑問である。 や×も多いようだ。
- ・協働の相手方が決まったところしかない場合は、協働したくても×になってしまう。

必ずしも公募だけが協働の前提ではないので、相手そのものがいなければ、違った点数のつけ方が良いかもしれない。

- ・市民側から見て、行政職員に夜まで付き合ってもらってあれば、協働として十分うまくやっていると考えている。行政が×をつけても、市民が ×をつける場合もある。両方とも×であれば改善していけばよい。
- ・これまでの市民と関わる事業では、職員が出来るだけ前に出ないようにやってきたので、既存の事業を評価するのは難しい面もある。
- ・ためにしに記入してもらった部署からは、×（現行では1点）を、もっと厳しく0点やマイナスにした方がよいという提案が出ている。
- ・全体的に見ると、「公開と評価」についての点数が低いことがわかった。
- ・行政用のシートを見て、市民側としてもやらないといけなと思った。その場その場でやっているの、良い反省材料になる。市民用のものもあればよい。
- ・点数が少ない事業については、指針に基づき、事務局が指導していったほしい。

3 まとめ

- ・今日の検討をふまえ、キックオフ大会のプログラム案や広報に載せる内容をまとめ、次回の協議会で はかることとする。（プログラム案は次頁参照）
- ・18年度の協働事業の募集に関しては、まず募集要綱をつくる必要がある。次回の協議会での議論をふまえて、要綱案を事務局で作成する。最初の年なので、出来るだけ応募しやすい形にする。
- ・モデル事業を通じて、協働の指針に照らして検証していくが、それが協議会の場となる。
- ・協働事業のチェックシートに関しては、市民側の評価も含め、さらに練り上げていくこととする。

以上

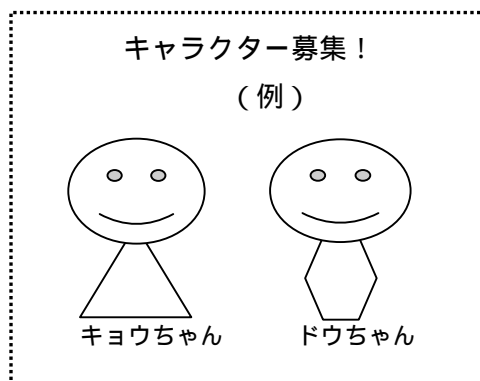


協働のキックオフ大会企画案

日 時 2006 年 5 月 13 日 (土)
場 所 御殿場市民ホール (小ホール)

タイトル案 「みんなで協働！！キックオフ大会」
 - 市民協働まちづくり元年 -

プログラム案



12:00	展示開始 * 市民活動団体によるパネル等の展示 * 報告、講演以外の時間は担当者が常駐し、訪れた人へ説明を行う
13:00 (10分)	開会あいさつ 御殿場市長 長田開蔵 御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会会長 芹澤敏弘 * 2人の協働作業による「キックオフ宣言」 * サッカーボールを蹴るパフォーマンスでアピール
13:10 (30分)	報告「市民協働まちづくり協議会の活動について」 前田慶子 (御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会副会長) 鈴木明代 (同協議会事務局) * 協議会の経緯、活動報告と、協働パイロット事業提案募集について説明
13:40 (60分)	講演「(仮) 市民協働社会は未来をひらく」 渡辺豊博氏 (三島グランドワーク事務局代表)
14:40	- 休憩 -
14:50 (100分)	市民活動団体、NPOによる報告・アピールタイム * 5分×15～20団体程度 (例：協働モデル地区5、市民公益事業団体3、市内NPO団体12) * 展示パネルやポスターなどを使用して説明 (方法は自由)
16:30	閉会 片付け
17:00	解散
18:00～	【交流懇親会】(会費制)